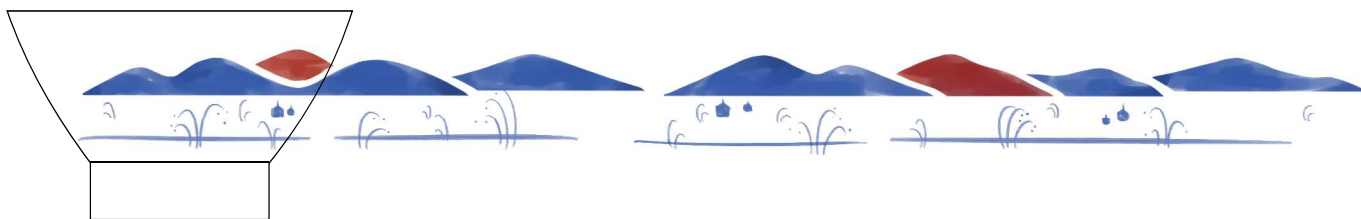


お米が食べたくなるご飯茶碗

～絵付けデザイン茶碗の製品化～

「宇和米」を一層おいしく食べられるごはん茶碗を作ろうと、西予市宇和町の宇和町米博物館で令和元年8月に行われた「絵付けデザインコンペ」で県内外36作品の中から3年生千守さくらさんのデザインが最優秀賞に選ばれました。最優秀作品は同館で実施している、宇和米と全国の米の食べ比べ「利き米」の食器に使用するほか販売も目指しており、受賞後はデザイン事務所の協力のもと製品化へ向けて作品を洗練させるため様々な取り組みを行いました。

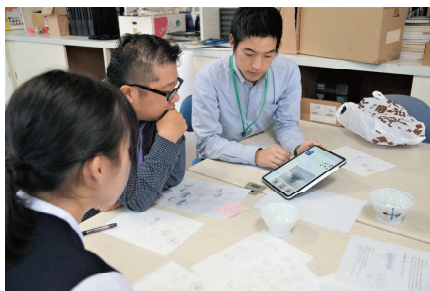


完成したデザイン

上部は岩城地区から観た山の稜線と、鳥殿・笠置峠という印象的な場所をアクセントに赤で表現。下部は稲穂とわらぐろを配置。

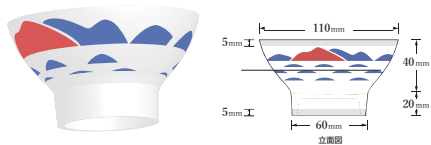
完成までの取組み

最優秀賞となった宇和米用と全国の米用の2つの絵付けのデザイン案。「うわ米」のデザインをブラッシュアップしました。



①

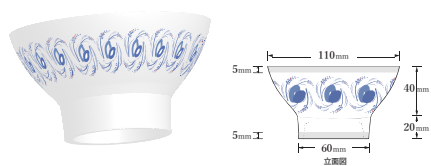
【うわ米】 タイトル:うわっ、大きな自然!



コンセプト

宇和町の自然をモチーフに、宇和海の美しい海や島々を具象で表現しました。海の波を半円で表現することにより、親しみやすく温かい雰囲気を出し、山を一つだけ赤にすることでデザインにアクセントをつけ面白みを出しました。全体的に形をシンプルにすることでより多くの人に伝わりやすくしています。

【全国のお米】 タイトル:ライスライフ



コンセプト

稲穂を円状のデザインし、中心にはお米を配置しました。多種多様なお米をイメージし、全国のお米なので一つのモチーフにとらわれず、どのお米にも合うようなデザインを意識しました。こちら稲穂の一部に赤を入れることでアクセントをつけ、デザインに面白みを出しています。



②



③

① デザイン事務所、宇和米博物館のスタッフの方と行ったデザイン協議では、「利き米」で使用される場面や、様々な角度から見た製品をイメージしながらデザインの見直しをしました。

② 製造元となる梅野精陶所さんへ訪問し、濃淡や筆跡など実際の製品を見て、イメージをより具体化しました。

③ 令和元年12月には現地取材を行い、岩城地区から観た宇和盆地や山の稜線を確認、「利き米」の試食を行いました。また、米農家の方からは地元の人々に親しみのある場所や事柄を聞きデザインに取り入れました。